

学校法人文化学園 川口文化服装専門学校

令和3年度学校関係者評価 報告書

川口文化服装専門学校 学校関係者評価委員会

令和4年7月

目次

1. 報告書骨子	2
2. 学校関係者評価 評価方法について	2
3. 学校関係者評価委員による自己評価への提言	3-7
3-1. 教育理念・目標（専門課程・高等課程）	3
3-2. 学校運営（専門課程・高等課程）	3
3-3. 教育活動（専門課程・高等課程）	4
3-4. 学修成果（専門課程・高等課程）	4
3-5. 学生・生徒支援（専門課程・高等課程）	4
3-6. 教育環境（専門課程・高等課程）	5
3-7. 学生・生徒の受入れ募集（専門課程・高等課程）	5
3-8. 財務（専門課程・高等課程）	6
3-9. 法令等の遵守（専門課程・高等課程）	6
3-10. 社会貢献・地域貢献・特別活動等（専門課程・高等課程）	6
3-11. 国際交流（専門課程）	7
4. 学校関係者評価を受けて	7

1. 報告書骨子

学校関係者評価委員会（以下、等委員会）は、「川口文化服装専門学校 学校評価実施要綱」に基づき、項目別自己評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者により本校の学校運営・教育活動について検証・助言を得ることを目的として実施している。

当委員会の委員は外部委員のみで構成され、本校の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から選考し、委嘱している。委員構成は下記「2. 学校関係者評価委員」に記載の通りである。

本報告書は、令和 3 年度の本校の取組みに対し当委員会としての評価・助言を得た内容をまとめ、作成したものである。

本報告書の作成にあたり、当委員会の委員の方々にはお忙しいところご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

2. 学校関係者評価委員

評価実施者：委員 4 名（企業関係者 2 名、保護者・地域住民 1 名、有識者 1 名）

「学校関係者評価」評価方法について

令和 3 年度の学校関係者評価は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面および電子的連絡方法により実施した。

配布資料：川口文化服装専門学校 学校評価実施要項

項目別の自己評価結果表

学校関係者評価 評価記入シート

3. 学校関係者評価委員による自己評価への提言

令和 3 年度自己評価において、本校が設定している評価項目に対する委員からの提言は以下の通りである。

3-1 教育理念・目標

【本校の現状】

服装に関する技術教育・職業実践教育と併行して教養と創造性の育成、及び常に変化していく現代社会にあってム図からの在り方・生き方を考え、主体的に行動し積極的に自己実現していくにふさわしい人材育成を教育理念としている。専門課程 2 学科（服装科・服飾専攻科）、高等課 1 学科 2 コース（服装科 高校併修コース・洋裁コース）を設置している。少人数クラスでそれぞれ基礎から知識を学び「着たいもの」が「作れるもの」になる技術及びクリエイターとしての感性を備えることで、職業人・産業人として社会で能力を発揮できる人材を目指して、専門学校の本分を遂行するため適切に設置している。

【学校関係者評価委員からの提言】

理念や目標においては、基本的に問題ないと思われるが、コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、アパレル業界自体に影響が出る中、入学者数の減少も大きな課題である。連鎖校の強みを活かし他校との差別化を積極的に図ることが求められる。時代のニーズに沿った教育方法を模索しながら、特色や学校の将来構想等を学生たちに発信し、選ばれる学校となるよう期待する。

3-2 学校運営

【本校の現状】

「大学等の修学の支援に関する法律」による修学支援の対象機関となる確認大学として認定されたことに伴い、これまで以上に広く学校情報を公開する環境の整備を見直す機会となった。法人としての規程の整備や情報公開に関する取組みには向上した点もみられるが、さらに改善の余地はある。

また、意思決定に関しては教職員の意見交換の場をより積極的に設けることで、学校運営の活性化につなげていきたい。

【学校関係者評価委員からの提言】

教職員の意識改革も重要であり、コンプライアンスや法令遵守とあわせ意見交換を意識するなどして、内部体制の強化が必要であると考えられる。

教育活動等に関する情報公開は保護者にとっても重要である、今後もさらに

改善を期待したい。

3-3 教育活動

【本校の現状】

基礎を重視した専門教育を土台として知識修得・実習を体系づけた学習の実践している。業界的にも進路実現のさらなる支援が必要であり、これまで以上に個々の学生の希望進路の実現にむすびつけられる職業実践教育の活性化が求められる。そのためにも資格取得は積極的に取り組んでいる。

【学校関係者評価委員からの提言】

コロナウイルス感染症により、外部団体等の連携が難しく対外的な評価を受けることが難しくなると想定される。ただし、授業形態の変化が影響している中ではあるが、実践的な交流を授業内容や指導方法に反映させるなどして、どの様にして学生に伝えることが出来るか大きな課題となると思われる。資格取得の為の指導において教員自身も資質向上の為の取り組みをしていくことが望ましい。

3-4 学修成果

【本校の現状】

卒業生・在校生の進路相談等については個別に対応するなどしているが、留学生をはじめ希望の進路実現に難航している点は否めない。ハローワークの講師の方をお招きして学生にセミナーを実施し、求人応募のアドバイスなど段階的にではあるが学生の進路実現に向けて尽力している。

【学校関係者評価委員からの提言】

コロナ渦の就職活動ゆえに難航したと思うが、更なる支援体制強化の為に外部機関への委託、連携を行うことも必要となるのではないかと。その中で、資格取得率が向上されている点は評価できる。

また、欠席が続く生徒に対し教員が個別対応を行っているとの事だが、連絡不能による除籍者が多いことから学校経営に影響が出ることが懸念される。入学選考時の見極めも強化が必要であると考えられる。

3-5 学生・生徒支援

【本校の現状】

「高等教育の修学支援新制度」に伴う給付奨学金や、日本学生支援機構の「留学生学習奨励費」等の公的な支援制度により、優秀であり経済的に不安がある世帯の学生の学習を経済面で支援できる体制を整える準備ができたことは、今後の学習支援に役立つと考える。また、専門課程は留学生の人数の割合が高く、学費の支払い等経済面で苦勞している学生に対しては、学校として支払の猶予などを実施している。しかし、留学生をはじめとした退学者・除籍者の主な原因は出席不足や学費未納などの理由が中心であり、退学・除籍者数の減少のためにも生活面の支援体制の見直しが必要だと考える

【学校関係者評価委員会からの提言】

学費を自らアルバイトで支払う学生がいる事は理解しており、コロナの影響により費用の工面が出来なくなっている事もわかる。しかしながら、学業よりもアルバイトが優先されていることは適切ではない。保護者との連携強化が必要である。

また、高等課程については郊外活動など学校の学習以外にも興味を持って参加できる場を、卒業生や他団体との交流を図り連携した実施を検討することも考えたい。

3-6 教育環境

【本校の現状】

施設の老朽化が著しい。消防設備点検や耐震診断など、緊急時に備えた点検は実施しているが、修繕が必要な部分も多く改善を要する。教室備品の老朽化や破損に伴う新規購入は担当教員と校長の相談の上、適切に整備している。

【学校関係者評価委員会からの提言】

校内施設の老朽化の進行は否めない、安心安全な環境で教育を受けさせる事は学校の義務であり老朽化施設の改善や防災対策などは積極的に行う必要がある。設備整備は学生の意欲向上にも通じるところがあり、大規模修繕は難しいと思うが部分的に修繕を進めていけると良い。

また、研修やインターンシップなど、情勢に関係なく実施できるようさらに検討を重ねる必要がある。

3-7 学生・生徒の受入れ募集

【本校の現状】

募集に関わる人員の不足もあり、学校訪問先が限られてしまった。在校生・卒業生の母校への資料送付や SNS を通じて学校の情報を公開することに力を入れた。しかし、学生数の増加に至らなかったため、より広報活動に力を入れていく必要がある。

【学校関係者評価委員会からの提言】

留学生の入学者が大幅に減少しているが、今後は留学生に頼らず日本人学生数を中心に募集転換するべきである。また、学生だけでなく地域との連携を強化し学校全体として認知を上げていくことが求められる。

また、広報においても学校へ行きたいと思わせる情報が発信出来るように工夫が必要、学生の作品や学校の様子など学校情報を SNS などで積極的に活用し、学校の認知度をあげ生徒に興味を持ってもらうことが大事と思う。

3-8 財務

【本校の現状】

収支計画の見通しを明確にすることが求められる。支出内容を見直し、財務基盤の安定・改善をはかる必要がある。財務情報については学内設置で公開可能ではあるが、広く公開するための環境については検討する必要がある。

【学校関係者評価委員会からの提言】

期や月単位での収支計画、事業計画をしっかりと立案し、妥当性を検証していくことが必要であると思われる。また、生徒数の応じた全体的な収支の見直しを実行することも良いと考える。

3-9 法令等の遵守

【本校の現状】

広報活動での SNS 活用など広く学校情報を展開する上で、学生・保護者と学校間での個人の作品の掲載等の承諾書の取り交わしを行い、個人情報保護の観点を重視した取組を実施している。また、自己評価をもとにした具体的な改善には時間を要する点も多い。

【学校関係者評価委員会からの提言】

今後、自己評価結果に伴う教職員間での確認・反省を徹底する事が大事。自己評価結果を速やかに公開し活用することも大切だと思う。

教育機関として、学生たちの見本となるべく法令遵守を基本に、個人情報についても引き続き情報の整理と保護の徹底をお願いしたい。

3-10 社会貢献・地域貢献・特別活動等

【本校の現状】

家庭の所得状況や一人暮らしの生活維持のために放課後にアルバイトをする必要がある学生が大半であり、ボランティア活動などをする学生が少ないのが現状である。今後も学生に無理な負担がかからない範囲で、ボランティア活動や地域活動情報等の紹介を充実させるように努めたい。

【学校関係者評価委員からの提言】

ボランティア活動などは、学生自身の生活や勉強が安定した上で実践できるものであるとも考えられるため、それに繋がる学生支援を図っていくことが不可欠である。

一方で、地域に根差した学校（学園）として、社会貢献や地域貢献の中心的存在になるよう、授業の一環（公開授業等）として行うのはどうか。また近隣の方とのコミュニケーション（あいさつ）等から始めてみてはどうか。

生徒たちと話し合いを持ち学校として、生徒として、人としての社会地域貢献の必要性を考えることから始める事も大事ではないか。

3-11 国際交流

【本校の現状】

東南アジア系の国を中心に留学生を受け入れている。語学力不足の学生もいるが、日本語の授業などで補助をしながら日常的には授業はすべて日本語で対応している。日本語能力検定の合格を目指し、日頃から自主的に学習する学生もおり、学校生活を通して日本語の修得に取組める環境づくりには今後も力を入れていきたい。一方で、入学後に欠席が続き連絡を取りにくい学生も少なくないので、より留学生の生活指導は徹底していく必要がある。

【学校関係者評価委員からの提言】

留学生の受け入れに積極的な点は評価できる。しかしながら、学修・生活指導も必要と感じるため改善を期待する。留学生が学業を継続できる支援は継続的に取り組んでほしい。

4. 学校関係者評価を受けて

本校教職員による自己評価結果をもとに、学校関係者評価委員の皆様には学校運営および教育活動について様々なご意見を頂戴し、感謝申し上げます。幅広い視野での提言を頂戴したことで、内部からの視点だけでは見えていなかった点にも気づきを得ることができ、改めて外部評価の重要性を感じました。今回いただいた提言の中で、早急に取り組むべき課題を精査し、職員会議等にて共有を図り、次年度の改善目標とする予定です。特に、学生募集や財政基盤の安定は急務であるため、より広い視野で具体的な対応策を検討していきます。

今後とも自己評価ならびに学校関係者評価を継続して実施し、本学の教育環境のさらなる向上に努めていく所存です。